



根岸のため池(大中町)

水の思い出 ⑤⑧

里美中学校の北側にある、根岸のため池、以前は農業用水として利用されていましたが、いつの間にか土砂が流れ込み、ヨシが一面に生い茂って水面も見えない程になっていました。地域で協力し

う一度きれいな水辺として整備し直したのは10年ほど前です。放流する魚やスイレンを寄付していただき、今では夏の朝、写真を撮る人が大勢訪れるようになってきました。

この数年、ため池の周りに休耕田が増えてきたのを憂い、休耕田に花を植えようと、市民提案型まちづくり助成事業の「はじめの一步事業」に応募し採択されました。写真は、その植栽作業中を写したものです。

ため池の奥、一段上がった位置にある休耕田に、アヤメを中心としてミズバショウやオルラヤなどを植栽しました。もともと池の周りには桜の木もあり、夏のスイレンまで折々の花が楽しめるようにと願っています。

昔は地区運動会なども開かれ、対抗リレーなど盛り上がった思い出がたくさんありますが、御多分にもれず高齢化の進む地区で、何かを一緒に行うことが難しくなってきました。そのような中、この花を植える試みを地域を守る作業と位置づけ、汗を流すことで地区の一体感を守って行こうと思っています。

春に花見、夏にはバーベキュー等できたら、と思いながらみんなで花を植える、いろんな夢を花と一緒に咲かせたいと思っています。

(大中町会長 小林信房さん、副会長 井上勝敏さん・談)

ふるさとの 伝承・暦 ④ 節分

季節の節目をいどころ伝承行事が今見直されつつあります。日々の生活の中にある地域性に富んだ風習、いにしへの暮らしや暦に結びついた神事などをご紹介します。今回は節分です。

節分というと2月3日を思い浮かべます。本来は旧暦の春・夏・秋・冬の4つの季節の変わり目を節分といい、「季節

を分ける」意味もありました。季節の変わり目には邪気（鬼）が生じると言われ、それを追い払う行事・「追儺祭」が平安時代には既に行われていたそうです。また、500年ほど前には「黄昏に及び、室毎に煎豆を散じ、よって鬼外・福内の四字を唱なふ」と記録されており、長く親しまれた行事となったようです。

その豆まきの風習は地域によって様々なことが知られています。常陸太田の追儺祭と豆まきのいろいろを調べて見ました。

※記事の内容は、各地区で取材にご協力頂いた方々のご家庭で行われている習わしです。その地区の全ての家庭で行われている風習ではありません。

●金砂郷上宮地区 - 魔除けの見張りは一斗ざる -

地区によってはヒイラギの枝に刺すが、この地区では豆がらに、ほうどし（めざし）の頭を刺したものを玄関・倉・木戸などに飾る他に、魔除けとして家のかどばには一斗ざるを置いておく。ざるは「メ」がたくさんあるので、その「メ」が目となり魔除けとして見張る意味があったと伝えられている。

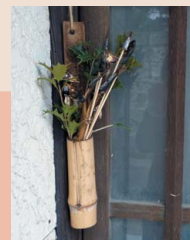
（鴨志田 弘子）

●金砂郷下宮地区 - 尾・頭セット -



焼いたほうどしの頭と尾を豆がらに刺したものを家族の人数分作る。4人家族の場合は頭と尾のセットを4つ、準備する。竹筒にそれを刺し玄関に掛けて置く。

（鴨志田 弘子）



ほうどしの頭と尾が刺してある竹筒

●芦間地区 - おうかがいをたてる -

豆をまくときは歳男が歳徳さまやお釜さまにおうかがいをたて、今年はこちらから始めますかと言ってからまき始める。豆まきが終わると歳の数だけ豆を食べ、その年は健康に暮らせるという。残った大豆は初雷さん（春雷）が鳴った時に食べるとよいと言われた。雷様が落ちても怪我をしないようにとか、豆を噛むことによって気をそらせようという意味。更に、一気に春を迎える呪術の願いがこめられているという。

（鴨志田 弘子）

●真弓地区 - 豆まきをしない習わし -

多くは煎った豆を「鬼は外、福は内」と声を出しながらまきますが、我が家では豆まきを行わず豆を歳の分食べるのみ。小さい頃から豆まきをしないのが何とも寂しく思っていますが、伝統と思い踏襲しています。子どものころ「どうして家では豆をまかないの？」と親に尋ねたら、「水戸光圀公が食べ物を土間に投げ無駄にするなどもっての外」とおっしゃったとか。要は食べ物を大事にするからと聞いた覚えがあります。

（高橋 靖浩）

●町屋地区 ー風習異聞ー

家系を辿ると平家につながるという集落が町屋地区にあり、「その集落では節分に豆まきはしないそうだよ。」と噂に聞いたので取材をしたところ、今では豆まきは普通に行っているそうです。「昔は平家の落人として、家があることを他人に知られないよう、大きな声を上げたりしないなど気をつけて暮らしてきたため、そんな噂になったのでしょうか」とのこと。他にも様々な言い伝えがあるそうです。

- ①鶏を飼ってはいけない・・・大きな鬨ときの声をあげる鶏を飼うなど、もっての外。
- ②正月のしめ飾り、門松を飾らない・・・人が暮らしていることをかくすため。
- ③お月見のすすきを飾らない・・・同じ理由。

最近では、鶏を飼う家や普通にお正月飾りをする家も増え、だんだんと変わってきたそうです。

(関根 悦美)

『 神社の豆まき その1 』

■東金砂神社

宮司の滑川祐善なめかわすけよしさんにお話を伺いました。

「節分祭につきましては、以前は祭事のみで、豆まきも行っておりませんでした。台風で被害を受けた田楽堂を改築した後、氏子さんから「ここで節分に豆まきをしてはどうか？」という声をいただき、氏子総代の方々のご理解とご協力により、現在のような豆まきを行うようになりました。今では氏子さんをはじめ、崇敬者のご参列をいただき、また、豆まきでまかれる福豆やお菓子を楽しみに参拝される方もいらっしゃいます。豪華な景品はありませんが、今年の福をいただきに、ぜひご参拝下さい。」

節分祭の一週間後、2月11日には嵐除祭らんじょさいも行われ、田楽舞が奉納されます。「嵐除祭は、以前は旧暦正月三日に執り行われていましたが、諸般の事情により2月11日の建国記念の日に変更されてから今年で32年になります。」と滑川さん。文字通り嵐や災害を防除し、

五穀豊穡と海上安全・大漁を祈る神事後、貴重な無形民俗文化財「田楽舞」が奉納されます。春の訪れを前に、様々な伝統行事や祭事が行われます。皆様も一度足を運んでみてはいかがでしょうか。

(塩原 慶子)



東金砂神社

■節分祭 2月3日 午後2時～
■嵐除祭 2月11日 午前11時～



豆をまいて福を呼び込む歳男たち



『 神社の豆まき その2 』

節分…年に4回ある節分のうち、冬と春の区切りの節分だけが行事として残ったのはなぜだったのでしょうか。昔は歳の始まりが立春からだったことや、長い冬から「再生の春」への喜びもこめられていたのではないのでしょうか。節分というと必ず見かけるニュースに豆まきのシーンがあります。春を迎えるこの行事は市内でも数カ所で行われています。豆まきが始めるとわっとその場が賑やかさを増すという楽しみもあります。ぜひ足を運んでみてはいかがでしょうか。

■若宮八幡宮



「節分^{ついな}追儺祭を行うようになって、今年で78回目を迎えます。」と宮司の和田さん。歳男とは追儺の儀を司る役目、毎年様々な方が申し込まれるそうです。申し込まれるきっかけとしては、歳男歳女にあたる等その他、厄年にあたる方、還暦・古稀・喜寿・米寿などの歳の区切りにあたる方がほとんどのようです。「一番長い方では58年」継続の方もいらっしゃるそうです。まく豆は以前は豆のままでしたが、汚れてしまう等の理由から今は袋に入れてまいています。拝殿での盛儀^{せいぎ}を執り行った後、子どもたちが学校から帰ってきてぎりぎり間に合う4時頃から豆まきが始まります。例年100名ほどの参加があるそうです。「拾った豆は袋に数粒ずつあるので、ぜひご自宅に帰って豆まきの豆と一緒に歳の数に足す1個召し上がってください」とのことです。

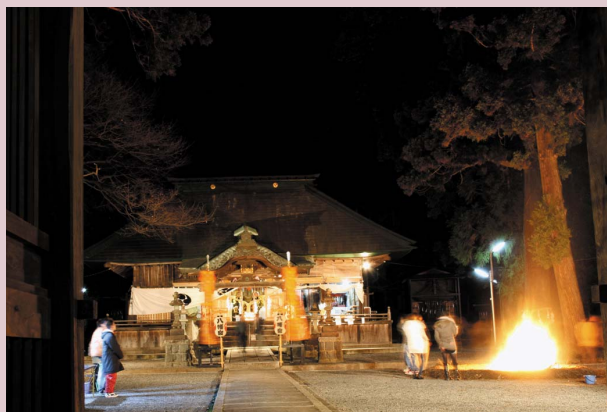


辰年にちなんで若宮八幡宮では、龍の装飾彫刻が展示されています。

■申し込み：若宮八幡宮 ☎0294-72-0868

■馬場八幡宮

「1月の中旬に、馬場町内では9名の世話人が歳男歳女などの参加希望を聞き、他の地区の方は宮司さんのところへ申し込みをする習わしです。ずっと長く続けてられてきたと聞いています。」と、氏子主任総代の大森博さん。世話人と氏子総代で境内の清掃を行い、年に7回ある祭礼を勤めてきたそうです。「昔は大勢の方が節分祭にきたものですが、最近は減って来てしまいました。地域を問わず大勢の子どもたちに来ていただきたいものです」と大森さん。毎年3時から拝礼のあと、4時頃豆まきになるそうです。



■申し込み：宮司・高木有久さん ☎029-274-1021

新年を迎える馬場八幡宮

「青い傘」は大きかった…

—クリスト・アンブレラ回顧展 顛末記—

フォンス第57号紙上で募集させていただいた、クリスト・アンブレラ展にまつわる皆さまの思い出の品々をお持ちよりいただき、「思い出の青い傘 —クリスト・アンブレラ回顧展—」が、常陸太田市郷土資料館で開催されています。当初の予定では、12月いっぱいの会期となっていました、「懐かしい」との声を頂戴し、展示期間を延長して、2月19日までの展示となったことは、企画に携わった者としては、ひたすら感激の毎日です。これもひとえに貴重な思い出の品をご提供くださった皆さまのおかげ…本当にありがとうございました。

さて、珍品優品揃いの今回の展示品の中であって、一同が度胆を抜かれた品が「その物ずばり！クリスト・アンブレラ本体の布部分」一式でした。クリスト氏によって傘本体はすべて撤去され、幻のごとく消え去ってしまったと思っていたものが、いきなり眼前に現れた時の衝撃は筆舌に尽くしがたいものでした。しかし、衝撃はまだ続きます…展示方法を検討するため、我々資料館員とフォンスネットワーク面々が、展示室内で折りたたまれた布を広げてみたのですが、なんとビックリ！直径8.5m×高さ6mの巨大さは、とてもじゃないけど、資料館の展示室ごときスペースには収まり切らない大きさでした。苦肉の策としてはありますが、瑞竜中学校の生徒さんのお借りして、体育館でいっばいに広げた様子を映像と写真で展示するという、ユニークな展示をさせていただくこととなり、あらためてクリストの偉大さを感じながら、非常に思い出に残る展示となりました。
(菊池 壮一)



2010年に再び現地を訪れたクリスト氏



展示された思い出の品々



アンブレラが開かれるまでの連続写真



瑞竜中の皆さんの手で20年ぶりに開かれたアンブレラ（布部分）

常陸太田市生涯学習フェスティバル

日時：平成24年2月25日(土)、26日(日) 9:00～16:00

場所：常陸太田市生涯学習センター、常陸太田市市民交流センター

昨日できなかったことが今日はできるようになる。一人では味気ないけど、仲間と一緒に楽しくできる。生涯学習には、数えられないほどの魅力がいっぱいあります。そんな魅力に魅せられた皆さんの発表の場が「生涯学習フェスティバル」です。常陸太田市の生活文化のお祭りの中から、皆さんの発表風景と展示している作品の一部を紹介いたします。



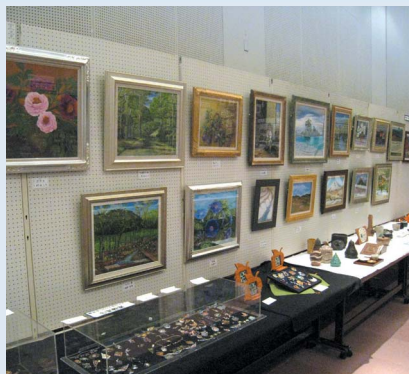
実技発表

皆さん、素敵な衣装を身にまとい、日頃の練習の成果を発表します。



展示発表

作者の様々な想いがこめられた力作です。ぜひ、ご自分の目でご覧になって下さい。
一般展示（一部を紹介します）



子ども体験コーナー



生涯学習フェスティバルでは「子ども体験コーナー」を開設しています。

25日(土)は科学マジックやスライムづくり、26日(日)はスーパーボール作りやロボット操縦が無料で体験できて、楽しく科学が学べます。

生涯学習情報誌「フォズ」は、2～3ヶ月毎に発行し、市内全世帯に配布され、大きな宣伝効果が期待できます。ぜひご利用下さい。

◆広告を募集している情報誌

平成24年4月から平成25年4月までに発行予定の
生涯学習情報誌「フォズ」第60号から第65号

◆広告料(1回あたり)※会長が指定するページの最下段

- ① 縦4.5cm×横 8.8cm/10,000円
- ② 縦4.5cm×横 17.9cm/20,000円

問合せ

フォズ・ネットワーク事務局
(生涯学習センター内)

TEL:0294-72-8888

URL:edu.city.hitachiota.ibaraki.jp/gakushu

百姓母ちゃん農日記 4 もんぱ便り

『ざーらさらい』

前回の里山クリーンアップ大作戦のあと、いよいよ今年の落ち葉をかく。山に入り、夫がブロワーで大体にまとめた木の葉を私がさらに熊手で集めてゆく。数か所に山のようにしたものを、今度はコンテナに詰めてゆく。かさのある落ち葉は足でギュッと踏むと、1/10位になる。どれだけの落ち葉を一つのコンテナに詰められるか、競争してなくても、なぜかむきになってしまい、たくさん詰められると一人で悦に入ってみたり、一人芝居をしながら、なぜか単純なこの作業に夢中になっている自分がある。

ザーザーッと木の葉を集める音を聞きながら、2つのことを思い出した。先日のクリーンアップ大作戦に遠くから参加してくれたおばちゃんに聞いた言葉。「何で参加されたんですか?」「ざーらさらいが好きなんだよ。昔から大好きで、またやりたくなってね。」落ち葉は「ざーら」。この言葉の響きは実際に落ち葉をかく音にぴったり符号している。落ち葉をさらうから“ざーらさらい”。ざーらの音、そしてざーらをかきながら香る山の匂い、吹く風、ふと見渡した時の風景。すべてを感じながら無心になって、ひたすらざーらをかきこ

とに夢中になる。寒い体も汗をかくほどに暖まって、きつとざーらさらいが好きな人は、五感で感じるこんなことが、楽しくって止められずに、山で過ごしてしまう人なんだろうなあ。もう一つは、友人の作った詩。ざーらさらいをして感じるものが、ぴったり表現されている。

ここにいるよ こっちにもあっちにも
いろんなどころにいるんだよ
カサコソカサカサ はっぱのおしゃべり
もりはぼくらのふるさとさ もりはいきものいっぱいさ
もりのようせい うたってる
こころのめでみてごらん こころのみみできいてごらん
ずっとむかし このつちのうえでおなじこえをきいていたね
ゆっくりあるこう ゆっくりあるこうよ

私たちが失ってしまった色々なものを、呼び戻す符号が、ざーらをかき森のあちこちに、ちりばめられているのかもしれない。それを取り戻したくて、やっぱり今年も山に入りざーらを集めているのかもしれないと思った。

(布施 美木)



子育て奮闘記

踊るママパラダイス 58

最近耳が聞こえづらくなつたような気がします。そう言えば本を読むとき見づらくなり勤も鈍つたような。だんだん五感に関して自信が持てなくなってきました。これを老化というのでしょうか、冗談として言い放っていた30代とは明らかに違う思いで最近使います。

仕事柄、お年寄りとお話することが多い私です。長く頑張っていた皆さんの言葉はいつも自分の肥やしとして心に刻んできました。その中で「子どもに迷惑はかけたくない。」と聞くことがよくあります。老いて体がいうことをきかなくなってきた自分の世話で子どもの生活を乱したくない。「親が頑張って育てた子ども(若い世代)だもの今度はおんぶしたっていいじゃないですか!」と応援するつもりで声をかけさせていただけますが、子どもの巣立ちが近づいてきて「確かに。」と密かに思います。

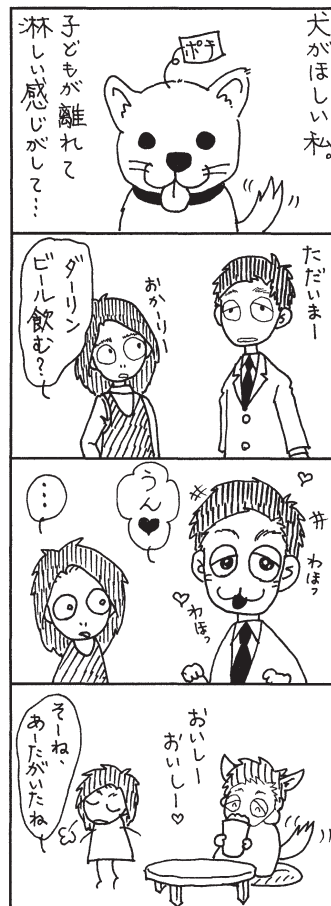
子どもの将来に関していつも願うことは健康と自立です。自分の手で幸せをつかんで欲しい気持ち。その幸せに自分がおぶさっているのかと思うのです。できれば死ぬまで自分のことは自分で。

そんなことを考えていたつい先日。冬休みで帰省していたスミレが読んだ本の感想を述べていきました。その本には、巣立った後の子どもの親と過ごせる日数を換算すると、2年程度しかないと書いてあったそうです。お盆と正月、そして時々帰省を日数計算すると確かにその程度になるがもれません。スミレは「私はもつと一緒にいるからね!」と息まいていました。実際、それはかなわぬ事のような気がします。ですが、限られた時間で私はまだまだ子どものためになることをしてやりたいし、頑張つて健康に過ごしたいと思えます。

「迷惑をかけたくない。」と眩く皆さま。その気持ちはだんだん理解できるようになりましたが、子ども達はかけてもらった親の愛情をまだ忘れていないと思えますよ。頑張つて元気でいましょう。

—— わいわいネット 織田 裕子 ——

わりと可愛いんです



リレー
エッセイ 「思い出の絵本」

『14ひきのもちつき』

～59～

(大森町 白幡 正子)

今は4才の娘が赤ちゃんの頃、栃木に住んでいたこともあって訪れた「いわむらかずお 絵本美術館」。今でもあのすばらしい風景が目浮かびます。そしてそこで娘に初めて買った本です。

ねずみ家族がでてくる14ひきシリーズ。私が好きなのは「もちつき」。朝からみんなでもちつきの準備、お父さんがまき割り、おじいさんがかまどに火を入れます。子どもたちも、臼や杵を運んでお手伝い。はじめはお米が飛ばないようによく練って、それからべったん、とったん。こねどりはお母さん。順番に子どもたちにもまわってきます。つきあげたおもちをまあるくちぎって、あんこもち、きなこもち、くるみもち。お昼にはつきたてをみんなで食べます。14ひきのねずみの表情も楽しげで暖かな雰囲気です。

つきたてのおもちは格別、おいしいです。私は臼、杵ではできませんが機械でもち作りを楽しんでいます。娘も、もちつきは大好き、米からおもちになるのを離れず見えています。

今でこそ機械で簡単にできることを昔からのおいしい作り方で丁寧に描き、家族で力を合わせることに、食事をする楽しさ、自然の恵みのありがたさ、暖かい、優しい気持ちになります。

(次回は 大里町 小野寺 治美さん)



ほつ
とひといき

イイギリ
(イイギリ科)



飯桐と書く。桐の葉のように大きく、昔この葉で飯を包んだことからこの名がついた。

昨年12月10日市生涯学習センター主催の親子自然探索サークル棚谷町探索で、赤い実が鈴なりにぶらさがって目立ったので写真におさめた。葉が大きく落葉高木で山中にしか見られない珍しい木。市内の西金砂山の南側山中に3本確認している。関東以西に分布。

幹は直立し、高さ15mにもなる。葉は卵円形で長さ20cmと大きく、長い柄がある。雌雄異株なので赤い実がなるのは雌の木。アオキやウメモドキも雌の木だけに赤い実がなる。ナンテンの赤い実に似ているのでナンテングリともいう。また沢にあるのでサワギリともいう。

5月頃枝先に長い円錐花序を出して、緑黄色の小花がたれさがり多数開く。落葉後も赤く熟した果実が3月ごろまで残り、大きな赤い実がたれ下がり目立つので庭木や街路樹にする。材は軽く、箱材、下駄材として用いる。

(桐原 弘)

ちよつとひといき

「かなcafé Vento(ヴェント)」



昨年の2月にオープンしたこちらのお店。オーナーの金沢さんは元々教師をされており、「教え子や友人が集まれる場所を作りたいかった。」とお店を始めたそうです。仕事を辞めたあと専門学校や結婚式場の洋食厨房で料理を学んだ御主人が

作る料理は、シンプルながらも丁寧に作られたやさしい味がする一品です。(萩谷 浩司)

- 常陸太田市内田町2701 Tel 0294-74-4486
- 営業時間 11:30～14:00 17:00～20:00
- 定休日 日曜日
- HP(ホームページ) www.kana-cafe.jp

常陸太田の地名話 ～8～

かき わ
堅 磐 【常陸太田地区 堅磐町】

難読地名の堅磐は、常陸太田市の南部、里川が久慈川に合流する左岸に位置する。その昔、釈迦堂村(現在日立市神田町)から分かれ一村となり、洪水が多かったことからか押切村と呼ばれた。江戸時代の享保3年(1718年)から護岸の頑強を願ってか、堅磐村と改称して、明治22年西小沢村の大字名となり、昭和29年の町村合併により常陸太田市の西小沢地区の町名になった。神社の新年祭等の祝詞に「手長の御世と堅磐に常磐にいわいまつり」と、堅磐は、永久に変わらぬことを祝ってという吉兆の語である。(石川 誠)

難読地名の堅磐は、常陸太田市の南部、里川が久慈川に合流する左岸に位置する。その昔、釈迦堂村(現在日立市神田町)から分かれ一村となり、洪水が多かったことからか押切村と

